

③ 政府軍用信託、秩序（秩序維持）への反共、反共を直接行動として行われている。

以上の事を基として、10、11月戦争における革命の前期から革命の過渡期への巨大な突破点を作り出すための諸条件は次のようなものである。革命的左派の「ゲモニ」が「反社、共」ならん努力獲得へと高まるためには、「敵意主義」ならん「口組」を討別するために次の三条件を確認せねばならない。それは以下の三つである。

- ① 大衆の自然発生的斗争の性格が「権力意志」を内包する事である。
- ② 市民社会の流動がその衆部まで全面的に形成される事である。
- ③ それを何の階級が「ゲモニ」を全国共闘へ集約する事である。

10月安保交渉にあることである。10月安保の対外的性格は自米の關係の一般性格ではなく、アジアへの「反共闘争」を遂行するアジア安保として明確に存在し、それは「ソトナリ」アジアに於ける軍事の「軍事化」と「国防及軍部同盟の再編」の躍りである。次に国内的性格は「帝国主義的社會再編」の進行が「大衆の帝国主義的再編」、「民間大企業の再編」、「労働者部向の再編」、「農業部向の再編」（食糧制の改定）等々として図られている。

三つした10月安保は帝国主義的「反共」勢力の拡大から「生じた反共再編」して進行する過程である。故に10月安保の言ひの「政治的動向」は「権力中枢」に存在する。従って我々の10、11月戦争の基本方針は「全国共闘」を「労働者部向の再編」を「権力中枢」へと導くことである。この方向性を固くせねばならない。

九月に結成される全国共闘評議会は、連綿と闘争の場として闘争するのではなくして、セクシム運動を止めた19年10、11月戦争なる10月安保戦争を導く反共統一戦線のその内実として全国共闘運動を位置付けねばならない。

統一戦線とは大衆の政治的社会的存在の再編問題（再編問題）であり、他の政治組織の質をも包括する政治的動向の存在と存在の問題であり、統一政治組織の存在性は政治的統一戦線にあり、この統一戦線として全国共闘運動を現在の反共統一戦線として推進せねばならない。

統一戦線の問題、統一行動としていふ少他するところならば、結成されるべき全国共闘評議会の分業は自明の理である。全国共闘評議会の10月安保戦争における統一戦線に於いての統一司令部として確定せねばならない。確かに全国共闘評議会のもの出現は、反、大衆の帝国主義的再編にはあったが、要は全国共闘評議会の再編が「権力意志」をもつたことなるのありつたことなるのである。つまり全国共闘評議会の「統一」の團結の優先から取る事は出来ぬことなるのありつたことである。その任務は、真に我々の、いかに向かっていることなるのである。

55